

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2020年3月
第40号
(年4回発行)

春の
お彼岸号

発行部数3千部



お彼岸 基本のQ&A

シリーズ浄土宗／帰敬式と授戒会

実践教室／葬儀のしきたり

春の合同彼岸会法要・施餓鬼会のご案内

彼岸会 基本のQ&A

令和最初の春の彼岸会は、三月十七日から三月二十三日までの七日間です。期間中にお墓参りに出掛ける方も多いのではないのでしょうか。

日本独自の仏教行事である彼岸会の基本を改めて考えてみましょう。



お彼岸はいつからいつまで？

お彼岸は春と秋の年二回あります。それぞれ春分の日、秋分の日を「中日」として前後三日ずつの七日間を言い初日を「彼岸の入り」、最終日を「彼岸の明け」と言います。

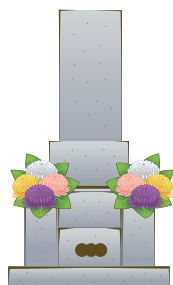
なぜ春分の日、秋分の日にあわせて行事を行うの？

春分と秋分は、太陽が真東から昇り真西に沈む昼夜等分の日になります。そのことから、仏教の中道の教えにちなんで行われるとされています。また、浄土宗のよりどころとする浄土三部経の『観無量寿経』の日想感に基づき、真西に沈む太陽から極楽浄土を思い浮かべることからなるともされています。

お彼岸の言葉の意味は？

彼岸は正しくは到彼岸といい、原点を超える・渡るという意味のサンスクリット語「pramita(波羅蜜多)」を漢訳した言葉です。

煩惱に苦しみ現実のこの世を意味する此方に岸「此岸」に対し、修行によって迷いを脱し、此岸を渡りきった悟りの境地を意味する彼方の岸が「彼岸」です。



お彼岸行事のはじまりはいつ？

大同元年（八〇六年）に行われた、奈良時代末期の皇族、早良親王の鎮魂の為の儀式が彼岸会のはじまりと言われています。『日本後記』には、大同元年（八〇六年）早良親王の鎮魂のため京都へ御霊神社を祀り、諸国の国分寺の僧に命じて「七日金剛般若経を讀まわしむ」と記述されています。

お彼岸の期間の七日間は 何をするものなの？

お彼岸では、お盆の時のように家庭で決まった飾りや行事を行うことはありませんが、迷いの世界である此の岸から、理想の世界（極楽浄土）である彼岸へ渡るための六つの修行である六波羅蜜を实践するための期間とされています。

六波羅蜜とは何？

布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧の六つを言います。

布施―見返りを求めず応分の施しをさせていただくこと。知識や教えなどの法施、優しい言葉をかける言辭施、心から人を思いやる慈悲心を施す心施など。持戒―自分勝手に生きることなく決まりを守り生活する。

忍辱―辛いこと、悲しいことがあっても恨みに思わず困難に耐える。

精進―ひとときも無駄にすることなく最後までやりとげ、日々誠心誠意尽くすこと。

禪定―ものごとをよく考え、心を落ち着ける。

智慧―心理を見極め真実の認識力を得る。



なぜお彼岸に

お墓参りをするの？

「私たちが、この世に存在しているのは、両親、祖先からの連綿と続いた生命の結果である。」という仏教の考えから引き継がれてゆくのちに感謝する場所である墓前で六波羅蜜の行の期間であるお彼岸に自分が今あることへの感謝の心と自分自身の生活を振り返り反省する為にもお墓参りに足を運ぶのではないでしょうか。



帰敬式と授戒会

帰敬式（浄土宗の檀信徒となる）

帰敬式は、仏・法・僧の三宝に帰依し、浄土宗のお念仏の教えを敬い信心を誓い浄土宗の正式な信徒となるための儀式で入信式とも言われます。帰敬式を受けなくても信徒になることはできますが、檀信徒の心得や浄土宗の基本的な儀礼を学ぶこともできる機会ですので帰敬式に参加することは大きな意味があります。

帰敬式は、菩提寺で受けることのできる式で、仏前で阿弥陀仏や念仏の教えを受けます。十念仏を授かるときの受け方など、基本的な儀礼、心得などを学び、その教えを守る誓いをたてたあと、日常のものに準じたお勤めをして式は終了となります。

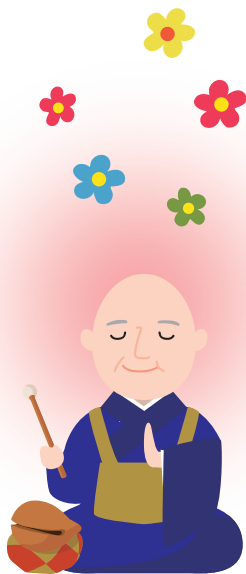


授戒会（仏教徒としての戒を授かる）

「戒」とは、仏教をよりどころとする全ての人が守るべき規範のことです。これを授かりたもつことを誓う儀式が授戒会です。

浄土宗の授戒会では、三さん帰き・五ご戒かい・三さん聚じゅ浄じょう戒かい・十じゅう重じゅう禁きん戒かいなどが授けられ戒名を贈られます。昨今は亡くなってからいた多くが多くなり死後の名前のように思われている方もいますが、「戒名」は本来、生前に仏教の教えを指針として生きていこうと思いつたときに授戒会や五重相伝を受け、その証に授かる仏弟子としての名前なのです。

授戒会の日程は、本山では七日間、一般寺院では五日・三日・一日と日数はまちまち。宗門や各お寺からの募集により受付けているので希望する場合は菩提寺に相談するとよいでしょう。



葬儀のしきたり

仏式の葬儀

ふだん宗教と縁のない暮らしをしている人であっても、いざ葬儀を執り行う場合には仏教式となることが多いのではないのでしょうか。

日本の葬儀が仏式で行われた最初は、「日本書紀」によると推古天皇三十年（六二二）聖徳太子が亡くなったとき、僧侶が呼ばれ読経したとあります。しかし、これは実際に仏式の葬儀だったかどうかははっきりしていないそうです。文献上、最初の仏式葬儀と言われているのは、天平勝宝八年（七五六）聖武天皇崩御のとき、はじめて焼香などをして仏式で葬られたとされています。仏式のお通夜、葬儀では、死者に死装束を着せ、枕元には三具足（線香立て、燭台、花立）を置き、その他に浄水、一膳飯、枕団子、四華など枕飾りをします。浄土宗では、死者はこの世から西方極楽浄土へ旅立っていくと考えられています。ですから手甲、脚絆、経帷子、わらじなどの死装束を着せるのも、旅立ちという考えからなのです。

一膳飯と枕団子は何のため？

諸説ありますが、その一つに一膳飯も枕団子も、実は善光寺参りの弁当なのだとされています。死者は息を引き取ると、あの世に行く前に善光寺参りをして成仏するという意味からきているのです。なるべく早くつくるように言われているのは、それが揃わないと善光寺参りへ出発できないからと言われているそうです。



枕経

枕飾りを整えたら菩提寺の住職を招き読経してもらいます。これは枕経といい亡くなった方が出家剃髪して戒を受け、西方十万億土の旅に出ていずれば極楽浄土に仏弟子として往生するための儀式です。

仏さまを拝むときにはお数珠を

葬儀の時だけに限らず、仏さまを拝む時には、数珠（念珠）を持ちましよう。仏事に数珠を用いるのは仏教としての作法です。素手で仏さまを拝むということは無作法にあたりますので避けましよう。



暮らしの中の 仏教語

「嘘も方便」【うそもほうべん】

嘘をつくことは悪いことではあるが、時と場合によっては嘘が必要なときもある。そんな意味の「嘘も方便」という成句。この方便とは、サンスクリット語のウパーヤの訳で仏教用語なのです。その意味は、衆生を真の教えに導く為に用いる仮の手段のことです。

あるとき子を亡くした母親が、悲しみのあまりなんとか子を生き返らせる薬はないかと町をさまよい歩いているとそれを不憫に思った人がお釈迦様のもとを訪ねるよう声をかけた。母親はお釈迦様のもとを訪れ子どもを生き返らせる方法を尋ねました。「町に戻り誰も死んだ人がいない家からケシの種をもらいそれを飲ませれば子どもは生き返るであろう」とお釈迦様に聞いた母親は早速町へ戻り町中の家々を訪ね歩きました。しかし、死んだ人がいない家はどこにも見つかりませんでした。その時、母親は人の死は必ず来る、死は人のさだめであることに気がつきました。

この母親にお釈迦様が説いた「死者が出たことのない家のケシの種」これが方便の意なのです。

春彼岸会 3月17日(火)～3月23日(月)

彩の都メモリアルパーク

春の合同彼岸会法要

日時 3月20日(金)

場所 彩の都 あすま会館 2F

時間 10時～

彩の都メモリアルパークでは、上記日程で春の彼岸会合同法要をお勤めします。是非、ご参列くださいますようお願い申し上げます。



西願寺大施餓鬼会法要のご案内

日時 令和2年5月25日(月)

13時より余興(落語)

14時より法要

先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う施餓鬼会法要は、年に一度の大供養法要です。万障お繰り合わせのうえ、ご出席ご参詣いただき御仏前にご焼香供養ください。



施餓鬼会は、「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」というお経に説かれた阿難尊者の話しに由来します。

お釈迦さまの十大弟子の中で誰よりもお釈迦さまの話しを聞くことから“多聞第一”といわれていた阿難尊者の前に、ある夜焰口という餓鬼が現れ「お前は三日後に死に來世は餓鬼に生まれ変わるだろう」「生き長らえなければすべての餓鬼に食べ物や飲み物を施せ」と告げられます。翌日、阿難尊者はお釈迦さまに相談に行き、その教えに従い餓鬼にの為に飲食を施し、供養の法要を営みました。この功德により餓鬼は餓鬼世界の苦しみから救われ阿難尊者も災難から逃れ命も延びました。



この故事がお施餓鬼の由来となり、施餓鬼会では先祖追福のため、また一切の生物の霊を慰め合わせて自分自身の福德延寿を願う法要が営まれます。

地域や宗派により異なりますが、西願寺では平成30年より、それまで8月に行われてた法要を気候のよい時期である5月に執り行うことにしています。

西願寺大施餓鬼会法要

彩の都メモリアルパーク管理事務所 管理費口座引落としのお知らせ

令和2年度分管理費が下記の日程にて口座より引落としをさせていただきます。口座の残高が不足している場合引落としが完了いたしませんのでご確認ください。

第1回引落とし 令和2年3月6日(金)

第2回引落とし 令和2年4月6日(月)

(第1回で引落としが出来なかった方のみ)

※第1回引落としができなかった場合は、4月6日に再度引落としの手続きをいたします。

彩の都メモリアルパーク管理事務所 TEL.048-921-4194

毎週水曜日は管理事務所の定休日とさせていただきます。事務手続き、電話問合せなどの業務は行えません。皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承ください。

西願寺 別時念佛会のご案内

西願寺では、毎月25日に本堂にて。別時念佛会を開いております。心の安らぎにもなる念佛と一緒に勤めませんか。

日時／毎月25日 18時より

◆参加申込：

事前にご連絡をお願い致します。お気軽にご参加ください。

※当日灯明料をご奉納願います。



申込・お問合せ 西願寺

TEL. 048-925-1723

■お便り募集■

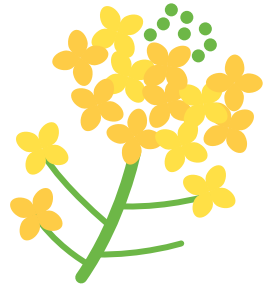
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03 (32605) 1700 Mail: info@io-co.net

■次号予告

次号は令和二年七月発行予定の「お盆号」です。



◆編集後記◆

寒さも緩むこの季節は、さまざまな小鳥のさえずりが聞こえてきますが、皆さんは「聞きなし」という言葉をご存知ですか？ 鳥のさえずりを人間の言葉やフレーズに当てはめて覚えやすくしたものを言うそうです。春告鳥とも呼ばれるウグイスの鳴き声「法法華経（ホーホケキョウ）」はあまりにも有名ですね。他にも、燕は「土食って、虫食って、渋い」、ホオジロは「一筆啓上仕候（イッピツケイジヨウツカマツリノウロウ）」と鳴いているように聞こえるのだとか。鳥のさえずりに耳を傾けてみてくださいね。

さて、今回誌面では、帰敬式と授戒会について取り上げました。仏・法・僧の三宝に帰依し浄土宗の教えをよりどころとして生きていることを宣言する儀式ですが、どなたでも受けることはできるので、ご興味のある方はご住職にご相談ください。ところで、コノハズクという鳥は「仏法僧（ブツポウソウ）」と鳴くのだそうですよ、何だかありがたい鳴き声ですね。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部